

2015年3月16日

意外に可能な

学問本質論

縄文
JOMON あかでみい 山田 まなぶ 学 ©

もともとはアフリカ大陸のみにみえた人間 (ホモ・サピエンス) が、地球表面の諸域に対応ないし適応しつつ諸民族に分化し闘争してきた少しは調和もしてきた伝統。この伝統における、認識理の必然と生理の必然と物理の必然を冷徹に理解していく。さういふ民族学本質論を発達させつつ、まともな諸民族調和への道を創造していく。さう、ありがたいものです。

民族闘争のための組織でもあつた国家との連関においては、アジア的・古典古代的・中世的・近代的といふ世界史的国家が、それぞれ、地球表面の特定領域にて登場した必然。これも解明していきたいです。

さらに、健康平和な現実認識の学問本質論 (世界学本質論と科学本質論) は可能です。そしてそれは意外にも、日本社会の民間からこそ可能です。これがわたくしどもの確信です。

健康平和な現実認識の学問本質論は可能である、といふ確信が弱いからこそ、人間社会の諸権威・諸権力の現状は、教育力でなく、資金力や武力に頼りすぎ、人間社会総体を漂流させてある、のです。まあ、悟りが無い、とでも言へませうか。

世界の本質的全面へ着目していくと、世界は本質的諸面の変化として認識されます。変化する対象においてある、矛盾する論理 (何かであるとともにそれでない。) として、世界の本質的諸面は理解されていき、世界の本質的全面は理解されます。

しかし、対象において矛盾する論理はない、と考へると、変化する対象を理解できず、無変化の対象しか理解できません。世界の本質的諸面の変化を理解できず、世界のどれか本質的一面にとらはれます。

結果、誠に哀しいかな、健康平和な現実認識の学問本質論の可能性が、とくに20世紀以降の思想諸権威 (これは思想の立場によらない。) には、見失はれてあるのです。つまり、〈群盲象を撫づ〉状態です。

わたくしが今までに思索 (矛盾の解決) してきた、対立の統一ないし区別と連関の諸項目を、以下に綴りませう。これらの思索はほとんど、JOMON あかでみいサイトの諸記録内容のなかにあります。なほ、これらは、わたくしが実

父から継いだ「TQ 技術」といふ次世代生命技術の生産力から要請された、新しい思想ないし理論である、といふ面もあります。

世界の本質あるいは世界の諸分野の本質には以下の対立の統一ないし区別と連関がある。

〈世界の本質〉

世界は主体と客体である。世界は体内と体外と認識したいである。体内が主体であり体外と認識したいが客体である。世界は体内の動的存在と体内の静的存在と関係と動的属性と静的属性と実体である。体内の動的存在と体内の静的存在が主体であり関係と動的属性と静的属性と実体が客体すなはち体外と認識したいである。

世界はまた生活と生産と自然と宇宙である。

世界には架空の世界と現実の世界とがある。世界には未知の部分と既知の部分とがある。世界は時間と空間の統一である。時間の過去と未来について未知の部分と既知の部分とがある。空間の壮大と微細について未知の部分と既知の部分とがある。世界には歴史があり部分として過程があり部分として運動がある。世界の歴史はすなはち進化と発達である。進化と発達には流転と集結がある。地球外主体と人間社会の問題がある。

世界はあるいは世界の諸分野は本質と構造と現象の統一である。世界には類と部分と個がある。類には普遍性があり部分には特殊性と普遍面があり個には個性と特殊面と普遍面がある。

世界の関係には矛盾する論理と絶対の論理とがある。矛盾の解決には調和と闘争がある。あるものの変化に対立するものが媒介する。あるものから対立するものへ対立するものからもとのあるものへ否定の否定といふ変化がある。あるものが直接に対立するものであるといふことがある。

世界の部分に質と量とかずと図形がある。量とかずと図形において執着無限と実用無限とがある。あるものと対立するものは質と量において浸透と転化がある。ものごとには内容と形式がある。あるものから対立するものへ内容と形式において止揚がある。

世界は現象において偶然と意志があり本質において必然がある。世界には主体的から客体的へ道徳と経営と公会発達と認識理と生理と物理といふ分野がある。主体すなはち体内にもとづき病的戦争と健康平和がある。健康平和な現実認識の保育・教育・保健 (の運営・指導)・看護・医療が理想である。諸民族伝統には必然があり諸民族調和へ創造する意志が理想である。個人には受精と生誕から死亡までの物理と生理と認識理がある。

〈道徳の本質〉

人民が認識と表現と労働と生産と休養を未来協同へ統一していく平等がある。健康平和な現実認識の労働力の養成と使用に世界対応の自由の拡張がある。労働力は学問と技能と規律と体力である。労働と修正と休養において姿勢動作と呼吸と意識を工夫する。技能には創出と保持と使用がある。認識と生体に技能があり労働手段と休養手段に技術がある。健康平和な姿勢動作と呼吸と食事(と排泄)と人間関係(とくに異性関係)と精神と生活環境を追究しあひつづける。健康平和研究の冥想生活が保健であり冥想生活において道徳を発達させる。道徳といふ生活規範は個々人に属し道徳共同体の運営や指導は道徳案のみである。個人の体内を人間社会発達ないし世界進化とつなぐ冥想をする。

〈経営の本質〉

呪術・宗教・哲学・科学・政治の伝統を止揚し健康平和な現実認識を生産しあふ。現場の渾沌とした情報にもとづき秩序ある予想をしあふ。記録と記憶と注意と発想と会議を連関させる。予想を実験と運営と経営により確認しあふ。資産と収支と負債を反省する。生産前提と労働力を組みあはせ生産する。生産前提は労働対象と労働手段である。労働力は休養手段と保育・教育・保健・看護・医療により養成する。仕入と生産と陳列と販促と健康平和研究の最高品質最低費用を追求する。商品の魅力と陳列管理のわかりやすさを追求する。提案と通信と金融と運輸と建築を健康平和化する。資産増殖目的から未来協同目的へ再編しあふ。食糧・資源・エネルギーと通貨の需給を健康平和化する。労働と貨幣と認識と言語の関係を正しく理解しあふ。

〈公会発達の本質〉

人間は世界を認識して表現ないし言語・記号しあつてゐる。機能言語学より内容言語学を発達させる。生活は労働と生産と休養である。健康平和な現実認識の学問と規範と芸術と保健(真と善と美と健)を発達させる。公会創造には学問と生産と道徳と民衆批評と政治解消(思考と生体と情感と情念)といふ分野がある。公会創造は思索と情念の先導と批評と反発の自由である。公会創造は指導と運営をさせていただく。指導部と運営部は民衆に育てていただく。未来協同へ規範と概念を統一していきあふ。未来協同には公会と協会と個人とがある。家庭と同好会と職場といふ協会がある。公会創造の意志は生産発達の必然に対応する。諸民族の闘争から調和へ追求しあふ。階級(資産格差)の闘争から循環へ追求しあふ。労働力(といふ商品)と通常商品と貨幣(といふ商品)の存在と要望を調整しあふ。人間社会の健康平和化のための立法と執行と司法と世論ないし選挙を考へる。すなはち政治形態と統治形

態と国家形態を考へる。軍事産業から健康平和事業へ追求しあふ。

〈認識理の本質〉

認識には感覚と表象と概念がある。目的と意志と規範もある。規範には言語規範・記号規範と道徳と組織規範と法律と条約がある。認識する自分には生体自分と脱生体自分とがある。認識には真理と誤謬がある。真理には相対的真理と絶対的真理とがある。概念は概念と判断と推論へ展開される。原子ないし素粒子といふ概念ともものあはれ・雪月花・花鳥風月といふ表象と酵素活性場の予感を調和させていく。

〈生理の本質〉

主体の陰陽と客体の陰性陽性といふ生理反応としての世界観がある。客体的と主体的の統一として神経的認識と血液的労働がある。文学の主題として愛と死がある。生命は生命体といふ主体における代謝過程である。遺伝配列は生存環境に適応する形態において代謝過程に反映する。生命体を構成してゐる物質は交替してゐるとともに生命体の構造・機能は一定期間、保持されてゐる。物質には生命促進性といふ物性がある。

〈物理の本質〉

物体運動は今ここに有るとともに無いである。空間の全位置に場といふ性質があり空間の位置には真空位置と物質存在位置とがある。「遠隔力」より場の論理を深める。場は空間の各位置における加速度の可能性と現実性である。力学から電磁気学を解釈するのでなく電磁気学の延長から力学を止揚する。物質には弾性と塑性と粘性と分離性の総合がある。「エネルギー保存則」といふよりは物質的運動における転化比例法則である。

世界、あるいは世界の諸分野について、本質と構造と現象を理解していく認識方法は、かうです。

あらゆる現象の奥にある本質を、予観する。その本質予観とすべての現象確認が調和するやう、構造の諸面を仮説していく。すべての現象確認と調和するやう、構造諸面仮説と本質予観をしだいに修正していく。現象確認そのものが困難な場合もあるが、ともかく、現象確認と構造諸面仮説と本質予観が調和するやう、修正していく。すべての現象確認と構造全面仮説と本質予観が論理的に調和したと、納得できた場合は、仮説や予観も確認となり、本質と構造と現象を理解できた、といふことになる。

この認識方法こそが、人間社会の未来協同へ思考統合の面において学問発達体を組織していく、協同認識方法でもあります。〈諸個人の学問のその時点での記述とそれを反省しあつての協同思索のくりかへし〉といふ方法の洗練も必

要です。

次に、わたくしどもは自由と平等の内容について考へ直します。

冷戦期西側の「国民の自由」と東側の「生活の平等」を超えます。

「国民の自由」でなく、〈人民の平等〉です。

「国民の認識と表現と労働と生産と休養の自由」でなく、〈人民が認識と表現と労働と生産と休養を未来協同へ統一していく平等〉があります。

「生活の平等」でなく、〈労働力の自由〉です。

「生活様式の平等」でなく、〈健康平和な現実認識の労働力の養成と使用に世界対応の自由の拡張〉があります。

むろん、社会を指導し運営する規範を無くすことはできません。しかしわたくしどもは、〈諸国家の人間社会公会への止揚〉は、不可能ではない、と考へます。むろん、社会における闘争性を調和性へ止揚していく、思考面・生体面・情感面・情念面からの総合的な規範と概念が必須であり、とても簡単なことではありませんが。それはまづ、情感面からの規範として、体内の快と調和を追求する個人の普遍化です。

むろん、わたくしどもの言ふ〈未来の人間社会公会への未来協同参画〉を保護・推進する各国政治活動は必須です。